

共生・公正・創造



ユニオン・EYE

<http://www1a.biglobe.ne.jp/jrtu-EWU>

ジェイアール東日本労働組合
 〒108-0014 東京都港区芝5丁目33番36号
 TEL(NTT)03-3453-2107 (JR)057-2290
 発行者/今井 伸 編集者/平 憲治

【虚構からの訣別を図るべき時期に到達したJR東日本！ シリーズ9】 小説・労働組合の一つの読み方、党中央は福原・嶋田側！？その

「大量脱退の真相」、革マル派発表文書と福原本との矛盾！

・・・とすると、「福原本」の記述は党革マル派の基本見解を完全否定するもので、それでは“無謬”神話の世界で生きている党革マル派の逆鱗に触れることになるのでは...と思うのだが、そのような気配はない。松崎氏を神の座から引きずり落とし、権力欲、物欲、金欲すべてに旺盛な単なる“ジジイ”的、低俗な人物として批判的に描いた『小説・労働組合』に対し、本来ならば一言あって然るべきところである。しかも同書には、『自然と人間』誌の編集ばかりか、経営にまで革マル派が参画していることなどが、著者（谷川忍氏）の立場から赤裸々に記述されている。にもかかわらず、革マル派による「谷川忍拉致・監禁事件」のたぐいが発生しないということは、どうやら革マル派は、今次、谷川忍著『小説・労働組合』の刊行に、激怒しているとか、不快感を抱いているということでは必ずしもないのではないか。

このように推理してきた筆者の結論を図式化すると、次のようになる。

革マル派見解の変遷 = 「4人組の犯罪」 「7人組の犯罪」 「松崎明の犯罪」

革マル派はその無謬主義からして、茶番劇に終わった「九州労組への潜り込み大作戦」立案・指令の最高責任者は「松崎明」であることを認めることは今後においても絶対はないが、かつての右腕として「松崎明の犯罪」事実を誰よりもよく知る『谷川忍』が小説形式でそれを明らかにすることには“暗黙の了解”を与えたのではないかと考えるからである。

革マル派は「真犯人は誰か！？」を百も承知の上で、最初から意図的にその人物を除外したのである。その理由は、「“松崎明”を批判することは、ことあるごとに『松崎・労働運動』路線を支持し続けた“黒田寛一”を批判することになる」という組織特情において、同派及び盲目のカリスマ教祖黒田寛一指導の“無謬”神話を守るためである。

全学連上がりのエリート中心、理論重視の党中央と、理論より実践重視の国鉄（JR）内革マル派との確執、対立は、「革マル派発足当初からくすぶっていた『党内問題』」であったことは、新左翼問題研究者などの間ではよく知られていることだ。おそらく、JR革マル“左派對右派”の主導権争いというあまりにも微妙な問題に一言も発せず見守ってきた党中央は、もはや三年にも及ぶ馬鹿げた確執過程で次々と白日の下に曝されてしまった「松崎明」の老害ぶりや、右往左往する取り巻き茶坊主集団の無能ぶりなどを見て、「元も子も亡くしかねない危険性」を感じた末、無言のままそっと「福原・嶋田派（＝JR革マル右派）」寄りに、スタンスを移動したのではないかと。だからこそ、今、この時期に、「松崎明」個人及び松崎・本部派に対する痛烈な内部告発書、谷川忍『小説・労働組合』が刊行されたのではないだろうか。無謬神話に絡め取られて、出たくても口には絶対出せないが、革マル派党中央は、心情的に“福原・嶋田派支持”。すでに「松崎明」を見限り、「谷川忍」が小説形式でおこなう“産別セクトの内部告発”に黙示の承認を与えている、と思う。ともあれ、『小説・労働組合』を一気に読了したマスコミ関係の知人が、「まるで“松崎逮捕の勧め”のようだ」と述べた読後感想が、非常に印象的だった。

党革マル派は、既に「ポスト松崎」への備えを固めつつあるように筆者には思われてならない。

《国鉄改革の完成に向けて（宗形明著）202ページ～204ページより抜粋》